

英国海綿状脳症諮問委員会
Spongiform Encephalopathy Advisory Committee: SEAC

1990 :農漁業食糧省と保健省の諮問委員会
現在 :環境食糧地域省 (DEFRA)、保健省、食品基準庁の諮問委員会

役割 :BSE、スクレイピー、変異型CJDに関する専門的科学的アドバイス

委員長 :Peter Smithほか9名 (すべて科学者)

海綿状脳症諮問委員会の再評価報告書 (5年毎)
2003年2月 (前回1997)

主要検討項目

SEACはいまだに必要か
どのように活動を行っているか
メンバー構成
サブグループ構成
EU SSCまたはEFSA(European Food Safety Authority)との連携
透明性
管理と経費

今後の必要な研究課題 (例)

感染の機構、vCJD発生予測、BSE発生メカニズム、
BSEとvCJD伝達の可能性のある別の経路、母親からのリスク因子、羊のBSE

BSEの経口感染実験
(1998年4月開始)

6カ月令子ウシ300頭

100頭-100 g、100頭-1 g、100頭-対照

体液の経時的サンプリング (1 - 3カ月毎)

潜伏期を決定するための臨床症状の監視

経時的解剖 (3カ月毎、1 gグループは5年後6カ月毎)

接種6頭、対照3頭

体液と組織 (凍結および固定)

診断法と発病機構の研究に提供

科学運営委員会 (Scientific Steering Committee: SSC)の設置

1996

多くの視点からのBSE問題検討委員会

(Multidisciplinary Scientific Committee: MDSC)

1997

消費者の健康と食品安全性保護を目的

「消費者の健康」の定義: 厳密な意味の事項と動物衛生、動物福祉、
植物衛生、環境衛生を含む

MDSCを改組、科学運営委員会を発足

委員長: ジェラルド・パスカル (フランス国立農業研究所長)

TSE (BSEを含む) について多くの視点から科学的アドバイスを与える
ことを目的

専門家によるアドホック委員会の併設

科学運営委員会 (2000-2003)

委員 :16名

8名公募 51名より選考 (選考委員長クリスチャン・ドユープ教授、ベルギー)

8名は下記の8科学委員会の委員長

食品に関する科学委員会 (BSE以外の食品のリスク評価)

医学 栄養学 毒性学 生物学 化学などの専門家16名

動物栄養に関する科学委員会

動物衛生と動物福祉に関する科学委員会

獣医公衆衛生に関する科学委員会

植物に関する科学委員会

化粧品など非食品に関する科学委員会

医薬品および医療材料に関する科学委員会

毒性、環境毒性、環境に関する科学委員会

科学運営委員会委員 (2000-2003)

Gerard Pascal (フランス) 委員長

Albert Osterhaus (オランダ) 副委員長

Vittorio Silano (イタリア) 副委員長

Keith H. Jones (英国)

Werner Klein (ドイツ)

Ib Knudsen (デンマーク)

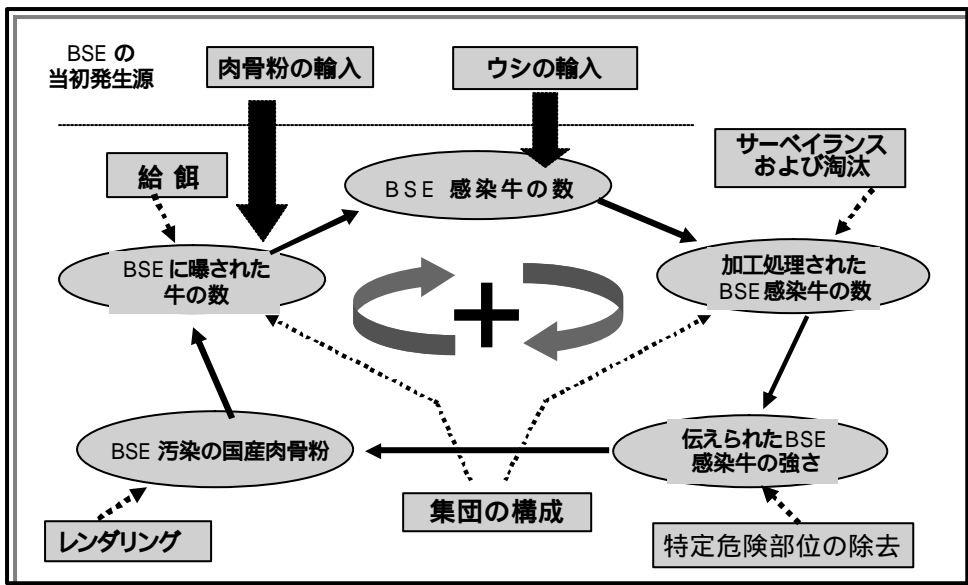
Pere Puigdomenech (スペイン)

Staffan Skerfving (スウェーデン)

科学運営委員会の最終委員会 2003年4月11-12日

協力専門家 25カ国より200名以上
採用した意見 約270
法律の提案 30

European Food Safety Authority (EFSA)がSSCの役割を引き継ぐ



EU 科学運営委員会の BSE リスク評価モデル

BSE検査キットの評価 (EC委員会、1999)

	プリオニクス	エンファ-	CEA (バイオラット)
感度*	300 / 300	300 / 300	300 / 300
特異性**	1000 / 1000	997 / 997	1000 / 1000
希釈実験***	未希釈	20 / 20	20 / 20
	10倍	15 / 20	20 / 20
	30倍	0 / 20	19 / 20
	100倍	0 / 20	0 / 20
	300倍	0 / 20	0 / 20

* 判定陽性サンプル数/陽性サンプル数 (BSEウシ)

** 判定陰性サンプル数/陰性サンプル数 (ニュージーランド産ウシ)

*** 判定陽性サンプル数/陽性サンプル数 ($10^{3.1}$ LD₅₀/g)

迅速BSE検査 (EU 2003)

	方式	承認	感度 BSE牛	特異性 正常牛	偽陽性 (陰性牛)
Prionics LIA	ELISA	03	230	13882	200
InPro	CDI	03	218	10219	200

B S E 発症牛体内の感染力価の分布状態 (1)

	感染濃度 (I D ₅₀ /g)	重量 (kg) (一頭あたり ⁺)	I D ₅₀ 感染力価	全感染力価 との比較
脳	10	0.5	5,000	64.1%
脊髄	10	0.2	2,000	25.6%
三叉神経節	10	0.02	200	2.6%
背根神経節	10	0.03	300	3.8%
回腸	0.32	0.8	260	3.3%
脾臓*	0.032	0.8	26	0.3%
眼球	0.032	0.1	3	0.04%

(1) : EU SSC委員会レポート(1999年12月)

+ : 537kgの牛の場合

* : データによっては感染性のないことがある

計 99.74%

EUにおけるBSE対策の経緯

1999年6月 (SSC委員会報告) BSE迅速診断法の有効性確認 (3検査キット)

1999年12月 (SSC意見) 消費者の保護に理想的レベルは感染動物の排除。これが合理的に保証できない場合の第2のレベルは特定危険部位の除去、とくに95%の感染性の存在する中枢神経系の除去 (実施7カ国)

2000年10月 特定危険部位の除去の義務づけ (12カ月令以上、回腸遠位部は全年令)

2001年1月 (EC Commissioner for Health & Consumer Protection, David Byrne)の議会での発言)

消費者の信頼回復のための緊急対策として30カ月令以上の牛についてのBSE検査の提案

(感染牛をできるだけ市場に出さないことの確保)

背景

牛肉の安全性についての消費者の不安持続

加盟国の安全対策実施状況が不十分

肉骨粉の使用禁止 (1994後に生まれた牛でのBSE発生

30カ月令以下の牛でのBSE (99%以上が30カ月令)